



宇野重吉 特集

没後30周年 Jukichi Uno Retrospective

2018.5.12(土)ー6.30(土) ※6.2(土)・3(日)休映

	11:00	14:00
5/12[土]	愛妻物語	あやに愛しき
5/13[日]	しいのみ学園	金環蝕
5/19[土]	縮図	夜明け前
5/20[日]	愛妻物語	金環蝕
5/26[土]	硫黄島	人間の壁
5/27[日]	あやに愛しき	しいのみ学園
6/ 9[土]	第五福竜丸	ドレイ工場
6/10[日]	硫黄島	人間の壁
6/16[土]	第五福竜丸	人間の壁
6/17[日]	縮図	夜明け前
6/23[土]	しいのみ学園	夜明け前
6/24[日]	第五福竜丸	ドレイ工場
6/30[土]	あやに愛しき	硫黄島

ホール客席数:270名/自由席/入替制

※開場は15分前(混雑状況により開場時刻が早まる場合があります)

【入場料金・1作品につき】

当日券:一般600円、高校・大学・65歳以上500円、小中学生400円
(未就学児、障害者手帳等をお持ちの方及びその介護者無料)

【チケット販売時間/当日券のみ】

●朝の販売時間は10:00~(12:00まで) ※午前・午後の2回分とも販売

●昼の販売時間は13:00~(15:00まで) ※午後の1回分のみを販売

【交通案内】

●武蔵小杉駅(JR南武線・横須賀線・湘南新宿ライン、東急東横線・目黒線)からバスで約10分

北口1番乗り場から川崎市バス

[杉40]市民ミュージアム行 終点下車

[杉40]中原駅行「市民ミュージアム前」下車すぐ

[溝05]溝口駅前行「市民ミュージアム前」下車すぐ

南口「東横線小杉駅」バス停から東急バス

[川33]市民ミュージアム行 終点下車

横須賀線口2番乗り場から東急バス ※土曜・休日のみ

[杉05]市民ミュージアム行 終点下車

●溝の口駅(JR南武線、東急田園都市線・大井町線)からバスで約20分

北口3番乗り場から川崎市バス

[溝05]小杉駅行「市民ミュージアム前」下車すぐ

北口5番乗り場から東急バス

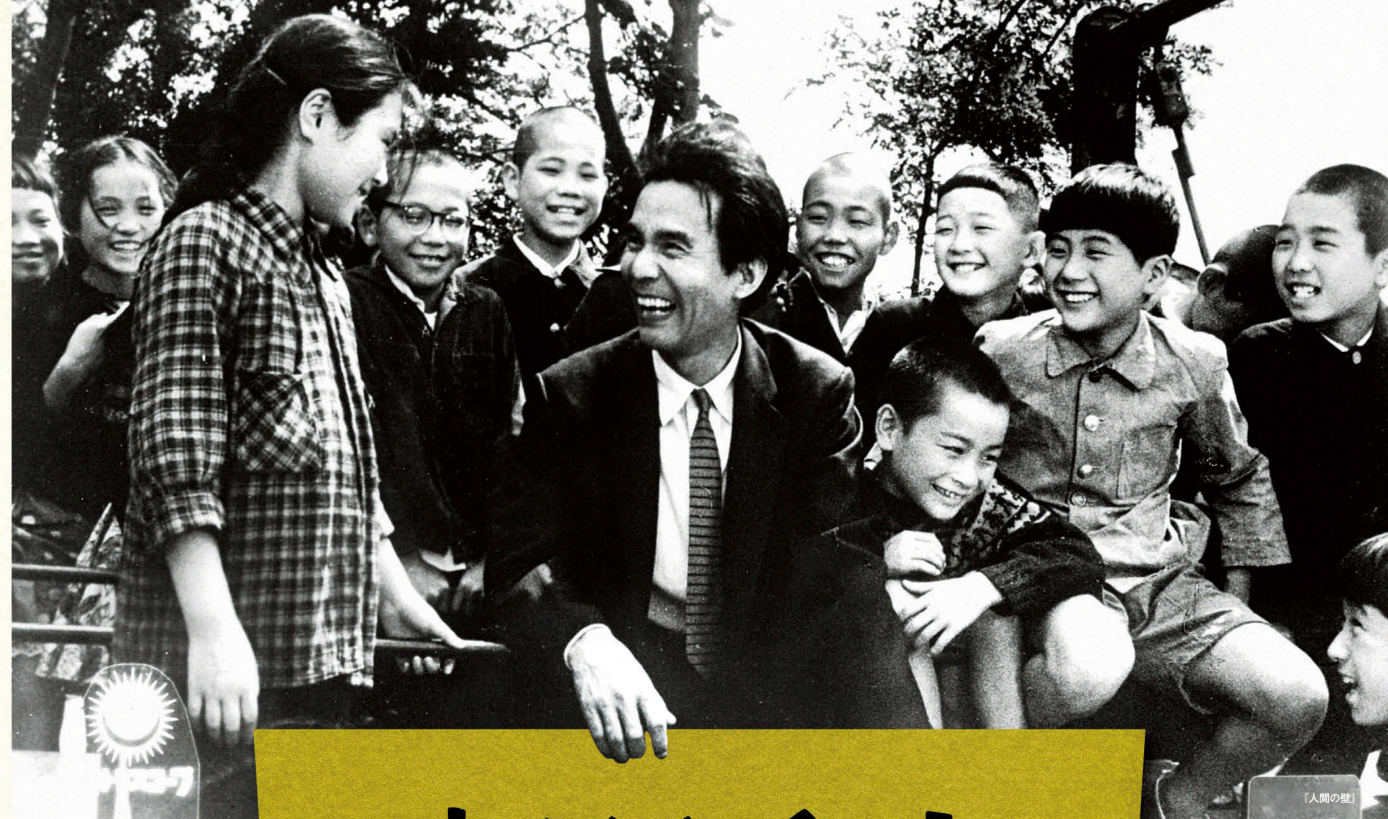
[溝02]小杉駅行「市営等々力グラウンド入口」下車徒歩8分

●川崎駅(JR)からバスで約40分

西口北バスターミナル82番乗り場から東急バス

[川33]市民ミュージアム行 終点下車

※当館に専用駐車場はありません。お車でお越しの方は等々力緑地内駐車場(有料)をご利用ください。駐車料金の割引等はございません。



宇野重吉 特集

Jukichi Uno Retrospective

没後30周年

2018.5.12(土)ー6.30(土)

※6.2(土)・3(日)休映

川崎市市民ミュージアム



川崎市 市民ミュージアム

〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力1-2(等々力緑地内)
TEL:044-754-4500 FAX:044-754-4533
<http://www.kawasaki-museum.jp>



宇野重吉特集

没後30周年

Jukichi Uno Retrospective

没後30周年を記念して名優・宇野重吉(1914-1988)を特集します。

新藤兼人、山本薩夫、吉村公三郎、清水宏といった監督たちと組んだ傑作群に加えて、宇野重吉による監督作品も上映します。

協力：劇団民藝、寺尾聰

宇野重吉プロフィール

(俳優・演出家・映画監督)

福井県生まれ。日本大学芸術学科中退。築地小劇場に通って演劇を志し、東京左翼劇場を経て、1934年新協劇団の結成に参加。戦後、1947年に滝沢修・清水将夫らと旗揚げした民衆芸術劇場(第一次民藝)を前身として、劇団民藝を1950年に創立。リーダー的存在として牽引し、劇団民藝は新劇の代表的な劇団として俳優座・文学座と並び称される。戦前から映画数作品に出演し、戦後1948年以降は本格的に映画俳優としても活躍。また、1956年に『あやに愛しき』で映画監督にも進出し、『われは海の子』『倅せは俺らの願い』『硫黄島』と4作品を監督した。(1914年9月27日生まれ～1988年1月9日没)



OKADOKAWA1951

愛妻物語

1951年/モノクロ/35mm/スタンダード/96分
監督：新藤兼人/出演：乙羽信子、宇野重吉、滝沢修、殿山泰司、菅井一郎、清水将夫

新藤兼人が39歳で宿願の監督デビューを飾った自伝的要素が色濃い作品。宇野扮する若き脚本家と、その修行時代を献身的に支えた妻との夫婦愛のドラマが展開される。本作で新藤兼人監督作品に初主演した乙羽信子にとっても女優としての地位を築いた転機となった。

5.12[土] 11:00
5.20[日] 11:00



あやに愛しき

1956年/モノクロ/35mm/スタンダード/108分
監督：宇野重吉/出演：田中絹代、信欣三、東野英治郎、山田五十鈴、奈良岡朋子

宇野重吉が初めて監督を手がけるにあたり、上林暁の病妻小説を原作に新藤兼人が脚本を書き下ろした。精神に変調をきたした妻を看病しながら、そのことを私小説に書かざるをえない小説家の苦悩を描く。本作では宇野は演出に徹し、劇団民藝の俳優たちが総出演した。

5.12[土] 14:00
5.27[日] 11:00
6.30[土] 11:00



しいのみ学園

1955年/モノクロ/16mm/スタンダード/99分
監督：清水宏/出演：宇野重吉、花井蘭子、河原崎健三、岩下亮、香川京子、島崎雪子

大学教授夫妻は自らの息子たちが小児麻痺のため小学校で差別されていることを悩み、私財を投じて小児麻痺の児童たちのために学校を作る。宇野は優しい父親かつ包容力ある教育者を演じた。養護学校の先駆的存在・山本三郎のベストセラーになった実話をもとに映画化。

5.13[日] 11:00
5.27[日] 14:00
6.23[土] 11:00



OKADOKAWA1975

金環蝕

1975年/カラー/35mm/スタンダード/155分
監督：山本薩夫/出演：仲代達矢、宇野重吉、三國連太郎、西村晃、京マチ子、中村玉緒

九頭竜川ダム汚職事件の実話にもとづく石川達三の小説を映画化した、山本薩夫の社会派エンターテインメント大作。どす黒い悪徳がオールスターキャストでめくるめく展開する。珍しく悪役の宇野は成り上がりの闇金王としてゲスの限りを尽くし、政治エリートたちを手玉に謀略をしかける。

5.13[日] 14:00
5.20[日] 14:00



縮図

1953年/モノクロ/35mm/スタンダード/131分
監督：新藤兼人/出演：乙羽信子、殿山泰司、菅井一郎、宇野重吉、日高澄子、山田五十鈴

昭和初期、貧困ゆえ家族のために芸者になるしかなかったヒロインの転落物語。その父親である下町の靴職人を宇野が寡黙に演じる。日本の自然主義文学の最高峰として評価の高い徳田秋声の同名小説を映画化。戦争に向かう暗い世相の苦難が縮図として弱き女性に振りかかる。

5.19[土] 11:00
6.17[日] 11:00



夜明け前

1953年/モノクロ/35mm/スタンダード/142分
監督：吉村公三郎/出演：滝沢修、乙羽信子、宇野重吉、清水将夫、細川ちか子、小夜福子

幕末から明治にかけて、中山道宿場町の本陣庄屋の17代目・半蔵は理想に燃えて村の改革に挑むが、世相に翻弄される。島崎藤村が実父をモデルにした歴史小説を原作にした芸文大作映画。劇団民藝総出演。宇野の出番は少ないながらも重厚な演技を見せるほか、ナレーションを担当。

5.19[土] 14:00
6.17[日] 14:00
6.23[土] 14:00



硫黄島

1959年/モノクロ/35mm/シネマスコープ/88分
監督：宇野重吉/出演：大坂志郎、小高雄二、芦川いづみ、佐野浅夫、山内明、小沢栄太郎

太平洋戦争の激戦地・硫黄島の生き残りだという男が新聞記者に自らの体験を語るが、次第に、戦争体験の重荷を背負う運命の過酷さが浮き彫りになる。同時代の視点で従軍体験を捉え、無名の市民たちが抱える戦争の傷跡を描いた心理ドラマ。菊村到の芥川賞受賞作を映画化。

5.26[土] 11:00
6.10[日] 11:00
6.30[土] 14:00



人間の壁

1959年/モノクロ/35mm/シネマスコープ/146分
監督：山本薩夫/出演：香川京子、宇野重吉、高橋昌也、宇津井健、高橋とよ、三ツ矢歌子

小学校教師たちの労働問題を描いた群像ドラマ。佐賀県教職員組合の実話にもとづく石川達三の小説の映画化。右傾化の世相の中で職場に対する締めつけが強まり、若手女教師たちは団結する。宇野は子供思いの実直な教師を演じ、毎日映画コンクール男優助演賞を受賞。

5.26[土] 14:00
6.10[日] 14:00
6.16[土] 14:00

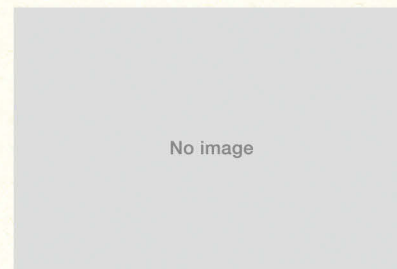


第五福竜丸

1959年/モノクロ/35mm/シネマスコープ/107分
監督：新藤兼人/出演：宇野重吉、乙羽信子、稲葉義男、小沢栄太郎、千田是也、三島雅夫

米国による水爆実験で被曝したマグロ漁船乗組員たちの実話を映画化。宇野は無線長・久保山に扮し、四十歳として最年長の乗組員であり、飄々と生きた海の男が原爆症により半年後に死を迎えるまでを演じる。『愛妻物語』『銀心中』に続く新藤作品3度目の乙羽信子との夫婦役。

6.9[土] 11:00
6.16[土] 11:00
6.24[日] 11:00



ドレイ工場

1968年/モノクロ/35mm/シネマスコープ/144分
監督：武田敦/出演：前田吟、日色ともゑ、草薙幸二郎、宇野重吉、高城淳一、杉村春子

低賃金と過酷な条件の工場で働く労働者たちが団結して立ち上がったという実話をもとに、労働組合や団体・個人などからの資金カンパによって映画化が実現。山本薩夫が総監督としてバックアップした。宇野は、昔気質の頑固な鋳物職人でいぶし銀の存在感を発揮。

6.9[土] 14:00
6.24[日] 14:00